

北白川EFEOサロン 2018-2019

日本における宗教と民衆への教え（16～19世紀）



歌川 国芳 《高祖御一代略図》 [建治三年九月身延山七面神示現]  
都立中央図書館特別文庫室所蔵

2018年 11月 30日（金） 18:00～

日本文化における〈地獄絵〉の機能と空間

—唱導・後戸・境界を中心に—

講師：鈴木堅弘（京都精華大学・特別研究員）

「地獄絵」(hell picture) は世界のさまざまな場所に存在するが、日本ほど多彩な地獄イメージを描いてきた国はない。本発表では「なぜ日本において地獄絵が数多く描かれたか？」に着目し、その理由を〈芸能民の唱導活動〉〈後戸の建築構造〉〈村落社会の境界性〉の三点から解き明かす。またこの三点は、日本の仏教観と密接な関わりをもちとくに仏教の世俗化がもたらした民間信仰とのつながりが重要な焦点となる。

なお、日本の地獄絵は江戸時代（17世紀－18世紀）に多く描かれたことから、その時代の地獄絵を取り上げ、それらが江戸期の都市空間や村落社会のなかでどのような機能を有してきたのか図像学的手法をもちいて明らかにする。

場所：フランス国立極東学院京都支部（EFEO Kyoto）



使用言語：日本語

研究者・学生対象

要事前申込

efeo.kyoto@gmail.com

または

075-701-0882 まで